WorldRunnersJapan
For A World Without Hunger

News Letter
for members & participants

2017年8月19日（第87号）
企画・編集　佐藤 高正　徳永 京一　鈴木香子
発行者　加藤 典宇暉
発行所（特活）ワールドランナーズ・ジャパン
〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷 2-17-1-108
TEL/FAX 044-949-1068　http://www.wrj.jp/

2017年 WRJ AFRICA プロジェクトツアー　無事帰国

シンギランドセカンダリースクールの校舎をバックに（タンザニアのブル）

2017年 WRJ AFRICA プロジェクトツアーを終えて　（2017年7月7日～16日）

WRJ代表理事　加藤　典宇暉

皆様に於かれましては、残暑厳しき折お元気にご活躍の事とお慶び申し上げます。日頃からお寄せ頂いております皆様のご支援の結果を確認すると共に現地の新たな要請を把握するため、代表加藤、副代表金子、事務局長矢崎、一般参加金子咲貴の4人が現地を訪れましたのでご報告申し上げます。今回もカウンターパート WRT※のスーレのアレンジと事前準備に助けられての現地訪問でした。スーレとの人間関係が在って初めて WRJ の AFRICA プロジェクトは可能と成っています。タンザニアでの訪問先は北部アリューシャ州の州都マウントメル―山麓の観光都市アリューシャ近郊とその西方 200km 程の農村地帯マニヤラ州のブル地域です。

アリューシャ近郊では、2008 年以来ほぼ 10 年振りの訪問と成る**マサイの村アルカリア**で WRJ のかつての支援が今も息衝いて居るのを目の当たりにし大いに力づけられました。また、日本出発前に**現在6人居るムリンガ中等学校の奨学生**と WRJ との関係をもっと親しい関係にするいくつかの仕掛けを準備し、奨学生は勿論ムリンガの生徒達とも充分その目的を達成して来る事が出来ました。WRT の**オフィスサポートプロジェクト**に関しては、アリューシャのオフィスを訪ねスーレには 2017 年分の賃貸料＄1,200 を渡し領収書と WRJ の皆さんへの謝意を受け取ってきました。

ブル地域に関しては、**シンギランド中等学校**の仮開校を確認し、15 年振りに教室建設を再開した**サイジロ初等学校**、村に入った外国人は我々が初めてという貧しい村の**ベニー初等学校**、そしてスーレが卒業した**エンダギコット初等学校**を訪問、訪問は出来ませんでしたがブルから 45km 程離れた**ダイナム中等学校**の校長からは寄宿生のベッドとマットレスの要望書を受け取っています。ブル地域に関しては、農村地帯で現金収入が少なく全体として貧しい地域である為コミュニティーでの資金調達が困難な背景が在ります。今回も地方行政庁トップ主催の夕食会に招待され、私達の活動への承認と継続した支援要請を受けたところです。当地域で支援活動をしている NGO/NPO は WRJ のみの為、地方行政庁並びにコミュニティーからの期待と注目度は高く WRJ の身の丈を超えています。

今回、アルカリア村で 30 年近い現地での支援活動がコミュニティーの未来を創って来たのだという実感を得られ大きな力を貰いました。WRJ は小さな NGO です。そして私達は普通の人です。私達なんでもない普通の市民が一歩を踏み出す事で AFRICA の未来に違いを創りだす事が可能です。皆さん一人一人のさらなるご支援をお願いし報告とさせて頂きます。

※WRT　・・・　World Runners Tanzania

三度目のタンザニア訪問　　WRJ副代表理事　金子良太

今回、3 度目となるタンザニア訪問では、ワールドランナーズ・ジャパン(WRJ)が支援している 6 名の女子奨学生が順調に学校生活を送っていることを確認でき、先生や保護者からも感謝の言葉をいただきました。また、彼女達が通うムリンガ中等学校で、生徒に日本に関するクイズを出した後、味噌汁やお汁粉等を味わってもらい楽しく交流ができました。WRJ が 2013 年から教室建設を支援し今年 1 月に開校したシンギランド中等学校では、地元の住民や教師、学校関係者の歓迎を受け、新しい教室で生徒と面会しました。このような機会を通し、サポーターの皆様、またランニング大会にランナーやボランティアで参加された方々等、WRJ の活動を支えていただいている多くの方のご支援が、目に見える形で実っているのを実感した 10 日間でした。一方で、現地では干ばつによる生活環境の悪化や貧困、水不足、教育施設の不足等、まだまだ多くの問題を抱えています。私達ができることは小さな事かもしれませんが、地道な支援を継続している WRJ に対する現地の期待を今回も強く感じました。滞在中に奨学生が私達に手紙をくれました。その一つを紹介します。昨年、奨学生になった Kindness さんからです。

奨学金認定証を授与する加藤代表

支援者の皆さんへ

お元気でお過ごしのことと思います。私は、中学 2 年生の Kindness と申します。毎日元気に過ごし、しっかり勉強しています。皆さんのサポートに御礼を言いたく手紙を書いています。皆さんのお蔭で勉強に取り組め、学校で必要な教材等も揃いました。努力して勉強し、成績も良くなりました。これまで受けたことのないサポートをいただき、感謝しています。これからも更に頑張ります。理科系の科目が好きで、将来医者になろうと思います。目標を達成するため、皆さんのサポートをお願い致します。一層、努力して勉強することを約束します。社会人になれば、家族を助け、教育面で地元の手助けもするつもりです。

Kindness Jonathan Shao

奨学金を受けている女生徒たち
左から 3 番目が Kindness さん

WRJ は、今後も皆様のご支援が現地の人達と子供達の喜びや希望に繋がるよう、活動していきます。引き続き、よろしくお願い致します。

アフリカツアー ウラ話　　WRJ事務局長 矢崎芽生

今回３回目のツアー参加となりました。１回目は初めてのケニア・タンザニア。見るものすべてが新鮮そのもの。２回目は奨学金の１期生２人との出会いや Singland Secondary School の教室の完成を見届けましたが、何か物足りなさを感じていました。３回目の今回のツアーの中ではいくつかチャレンジしてこようというモノをもって、旅発ちました。

前回物足りないと感じた理由は、特に奨学生と会った時でした。彼女たちが緊張のためか笑顔がほとんど見られなかったこと、発する言葉を聴けなかったことが、残念だったからです。また、前回はプレゼントとして WRJ の大会の様子などの写真アルバムを用意したのですが、そもそも彼女たちが WRJ とはいかなる団体なのか、どう理解されているのか、ちゃんと説明できていないことも心残りでした。今回は時間をたっぷりいただき、しっかり交流しようとこちらからもいくつかの準備をしていきました。まず、WRJ の紹介資料の作成。日本だとプレゼンテーションは当たり前のようにパソコンで作ってプロジェクターで映して・・となりますが、タンザニアの学校にはプロジェクターがありません。なので、スクラップブックに印刷した紙を貼り付けて、紙芝居のような形で紹介をしました。さらに、どうしても動画を見てほしくて、私の小さなノートパソコンで映して見てもらうことにしました。動画は、Sunny さんがタンザニア国歌を歌うところや、大会のスタートの様子、ジャンベ演奏で盛り上げているところなどを見てもらいました。また、いつも日本で WRJ の活動紹介に使っている、奨学金支援の動画について見てもらったとき、２年前の自分たちの様子に、SHARIFA（第１期奨学生）　が感動して涙したときには、私も泣きそうになりました。

それから、日本文化を知ってもらおうと、何が良いか有志メンバーでミーティングをしたときに、「食」がいいだろうということになり、今回フリーズドライの味噌汁を大量に持参し、味わってもらうことにしました。他にもお汁粉や、アルファ米のご飯、水で戻して食べるお餅、そして日本食の鉄板“梅干”、を用意しました。梅干を食べたときの生徒たちの反応は、予想通り「何だ？これは？？」という表情でした。味噌汁は意外と好評で、みんな好んで食べてくれました。ご飯もお汁粉もまずまずといったところでした。ほかに、シャボン玉を用意したのですが、時間がなくこちらは断念。スーレさんのお孫さんへプレゼントしてきました。これ以外にミーティングの中で出たアイディアから、チャレンジしてきたことがあります。日本ではタンザニアといわれても、アフリカ、と思うくらいでなかなか知られていないことが多い中、私たちが見てきたことが予想以上に関心を持ってもらえるのではないかということで、Twitter で「タンザニアなう」という写真をアップしていこうということになりました。こちらはボランティアの平野由梨子さんの協力で、私が撮った写真を Twitter にコメントと共に随時アップしていただきました。それ以外に、食事をすべて手で食べるというチャレンジをしてみようということで、こちらも写真に収めてきました。ぜひこちらは Twitter で内容を確認してみてください。そして、タンザニア国旗風にネイルをして訪問したことも良い思い出です。

３回目にして、やりたかったことを実現することができました。タンザニアを訪問するたびに、私たちは何を目指し、どう彼らと向き合っていけば良いのか悩みは尽きませんし、小さな団体ではやれることも限られてしまうということへのジレンマもたくさん感じます。支援することの意味をいつも考えさせられます。例えば奨学金プロジェクトについて、少なくともそれによってチャンスを得られる学生がいることは間違いないし、大きな意味のある活動だと思っています。だからこそ途中で投げ出してはいけない活動なので、彼女たちに寄り添っていきたいと強く思っています。そして、その想いをぜひ奨学生たちに知ってほしくて、WRJ の紹介資料の中で、最後にメッセージを伝えました。

WRJ will keep being with Africa.

・We will keep doing our best to provide necessary supports in the region.

・Hope to work together with people in Tanzania from now on.

（これからもアフリカとともに・・

私たちは、私たちができることで、必要なサポートをしていきます。

あなたたちとともに・・・）

次回は、どんなチャレンジをしてこようか、今から考えておきたいと思います！

2017年 アフリカプロジェクトツアー

○ アリューシャ

1. Arkaria Village

今も稼働する製粉機

WRJ が 1996 年～2002 年に、水道管整備、家畜の薬浴槽、教室の建設と備品購入、製粉機購入、ウォータータンクの強化等で計 342 万円を支援したマサイの村。村のリーダー、Alais　Morindat さんを訪ね、マサイの伝統的な住居等を見学。現在コミュニティセンターを建設中。2 棟の建物は概ね完成。建物の間に屋根を渡しホールとする計画で、既に壁はある。

2000 年に村の女性グループに支援した製粉機は今現在も稼働しており、徴収した製粉料はプールしメンテナンスとメンバー等への緊急の貸付に充てている。村の女性達が利用中。村の小学校の生徒数は約 100 名。

２．スーレさんのオフィス

スーレさんは昨年退職し、今年から賃貸オフィスの使用を開始。WRJ は賃貸料として年間＄1200 を支援。場所は、アリューシャ中心部から車で 15 分。以前、工場のオフィス棟だった建物の一室で、1 人用オフィスとしては十分な広さでかつ、落ち着いて仕事ができる環境である。

３. Muringa Secondary School

生徒数 1,411 名、教職員 100 名のセカンダリースクール。1 年生～4 年生(Form I～IV：Ordinary レベル)は共学、5 年生～6 年生(Form V～VI：Advance レベル)は女子のみ。WRJ の奨学金を受けている 6 名の女子生徒が在学中。

今回の訪問では 4 時間の滞在時間をとり、奨学生や保護者との交流や、一般生徒との交流を行った。奨学生や保護者との交流では、双方の自己紹介、生徒による歓迎の歌、全員で簡単なゲーム(アイスブレイク)、WRJ の活動紹介、奨学生の生活や学習状況等につき質疑応答、奨学金認定証の授与等。奨学生は寄宿舎で生活し順調に学校生活を送っている様子。6 名の内、2 名は今年 11 月に Advance レベル進学のため試験を受ける予定。奨学生の養母から、「合格した場合、WRJ の奨学金を継続してほしい」との依頼があり、「継続する」と返答。校長からは「WRJ の奨学金は大変、役立っており有難い。生徒も意欲を持ち勉強に取り組んでいる」とコメントあり。また、6 名の成績表と生徒から WRJ 宛の手紙を受領。Kindness さんの成績はクラスでトップレベル、との事。当方から、「奨学金の 500 ドル/年はどのように使われているのか」と質問。校長からは次の説明があった。タンザニアでは Form I～IV の学費は政府が負担する。このため生徒(保護者)の負担は無。一方、教科書代、文具費、生活費(寄宿舎代)は生徒(保護者)の負担。また、学校が校舎の修繕を行う等で親から資金を集めるケースがあるが、奨学生の家庭は貧しく拠出は不可能。奨学金はこれらの支払に充当している。WRJ 紹介の動画の中でイベントでの Sunny さんのスワヒリ語によるタンザニア国歌独唱やジャンベチームの演奏等は、ＰＣの小画面にもかかわらず WRJ と現地の距離を一瞬にして埋めてくれた。一般生徒との交流では、生徒約 50 名に対し、まず私達の自己紹介をした後、日本に関する簡単な質問(クイズ)を出題した。

＜クイズ＞
日本の位置/場所はどこか　⇒正解率約８割
日本の国旗はどれか　⇒正解率 10 割！
日本の主食はどれか　⇒正解、無
（殆どの生徒が「ヌードル」と回答）
日本に野生のライオンはいるか　⇒正解率 10 割！

その後、味噌汁、お汁粉、きなこ餅を教室で作り、味わってもらう。また梅干も出す。生徒達は、初めての食べ物に興味津々の様子でワイワイ言いながら味わっていた。梅干は、「変な味！」といった反応もあった。その他、日本の中高生との交流について、将来 日本の中学生や高校生との交流の可能性につき校長に意見を聞いた。校長からは、次のコメントがあった。①Skype でのコミュニケーションは可能。②クラス単位でコミュニケーションを行い、内容(トピックス)は物理や化学等特定の科目やスポーツが良いのではないか。③中学生同士、高校生同士(同じ年代同士)が良いと思う。

味噌汁、お汁粉などを作る

○ ブル

1. Mbulu District Office（Mbulu はマニヤラ州の 5 の地域の内の一つ）

ブル地区を管轄する役所を訪問。地区議会長(Chairman of Mbulu District Council)、評議員(District Council)、教育長(Education Minister)、中学担当事務局長(Secondary School Administrator)と面会。

2. Singiland Secondary School

WRJ が 2013 年から 2 教室の建設を支援してきた中等学校(支援金、計 268 万円)。2016 年 11 月 23 日に学校として認可が下り、2017 年 1 月 16 日に生徒 115 名で開校。教師は 11 名。現在の設備は、8 教室、教師と生徒のトイレ、机と椅子 各 140、教職員の家 1。現在、8 教室の内、3 教室は授業で使用。残りの 5 教室の内、3 教室は仮実験室、仮職員室、仮図書室として利用。2 教室は来年入学予定の 1 年生用の教室として利用予定。タンザニアの法律で、中等学校は 3 つの理科実験室(化学、物理、生物)、教職員室、図書室の設置が求められており、コミュニティーは理科実験室の基礎工事を開始。

生徒等との交流では、教師、スクールコミティメンバー等と面談。WRJ が支援した教室で生徒と面会し、校長より WRJ を紹介。校長の要望として理科実験室の建設があったが、要望書・予算書を待ち、検討することとなった。その他の要望としては、日本の学校と姉妹校制度をもち、Singiland の生徒に日本の生徒とのコミュニケーションや日本の生徒による 1 週間のスタディツアー等を検討したく、協力をお願いしたいという要望もあった。

3. S aigilo Primary School（建設中）

15 年前に建設を開始したが、コミュニティが他の学校を作ることを優先したためプロジェクトが中断していた小学校。近年、コミュニティの子供の増加、また通学への負担を考えプロジェクトを再開し、現在 2 教室を建設中。更に 4 教室が必要。

4. Benee Primary School

ブルからアップダウンの激しい山道を車で 1 時間余り走った山の上にある初等学校。大変貧しい地域であり、生徒数 257 名に対し、施設は 3 教室と 3 つの教職員の家のみ。今年、中等学校に進学した

一緒に踊る金子副代表（一番右）

のは 25 名中 6 名。生徒は片道 3～5km の道のりを通学している。また、教師の中にはブルから通ってくる者もいる。来年以降に入学する生徒の数を考えると、教室が足りず、3 教室をコニュニティで建設中だが、資金が不足している状況。

WRJ への要望としては、3 教室の建設支援（優先度１）、2 つの教職員の家の建設支援（優先度２）。当日はスワヒリ語の要望書しかなかったため、後日、英語の要望書を受領予定。外国人がこの村を訪れるのは初めてとのことで、多くの住民、生徒が歌と踊りで歓迎してくれた。（私達も一緒に踊る）

右は金子咲貴さん

5. Endagikot Primary School

スーレさんが卒業した初等学校。1929 年に創設されブル地区で最も古い初等学校。2 年前のアフリカプロジェクトツアーでも訪問した。生徒数 481 名。また、障がい者クラスがあり 25 名が学んでいる。生徒数は増加中。教師は 20 名。教室は 14。その他、図書室 1、教職員の家 7、倉庫 2、食堂 1 がある。創立後 88 年が経ち、多くの建物の壁や屋根にヒビが入り、また穴が開いている箇所もある。修理が必要で、まず劣化の激しい 5 教室と 1 障がい者教室の修理を行いたい。しかし、8 年に渡る天候不順や干ばつの影響でコミュニティの収入は減少しており、資金拠出は困難。WRJ への要望として、特に危険な状態となっている 2 教室の修理のための支援。費用は 19,527 千シリング（≒976 千円：予算書受領）。尚、残り 3 教室は地元の政治家や商人、自治体等に資金拠出を依頼する予定。そして障がい者教室の整備（障がい者が学びやすい環境を作る）、障がい者用教材の購入がある。

6. ブル地区のリーダーたちとの夕食会

地区議会長や地域のリーダー等、約 15 名との夕食会に招待され出席。現在ブルの診療所勤務と成ったアンドレア・マオ氏も地域のリーダーとして同席。日本からの訪問及びこれまでのブル地区への貢献に謝意あり。また、今後も支援継続の依頼あり。前回のプロジェクトツアーでもブルで同様の夕食会に招待されている。スーレさんによれば、現在 ブル地区で活動している NPO/NGO は WRJ のみであり期待感が大きいとの事。

また、この席で Dinamu Secondary School の校長から、寄宿舎用ベッドとマットの購入への支援要請があった。同校の概要として、ブルから 45km 先にある田舎の中学校（遠方なので、今回 訪問しなかった）。創立 2007 年。生徒数 330 名。施設は、14 教室、3 実験室(化学、物理、生物)、教職員の家 5、事務棟１、トイレ、女子寄宿舎（利用者数 35 名）。男子用寄宿舎は無く 現在 5 名の男子生徒が教室で寝泊まりしている。学校周辺のゲットー(環境の悪いレントハウス)に住んでいる男子生徒も多い。WRJ への要望としては、今後、寄宿舎の利用者が増加見込みであり、2 段ベッド 60、マットレス 120 の購入支援。合計金額 18,600 千シリング(≒930 千円。明細書受領)

左はアンドレア・マオ氏

【スーレさんの意見】

訪問を終えた後、WRJ の資金が限られる中でどの要望を優先すべきか等につき、スーレさんの意見を聞いた。内容は次の通り。

左から 2 番目がスーレさん

・当方：WRJ の資金は限られており、全ての要望に応えるのは無理である。スーレさんはどのような形の支援が良いと思うか。

・スーレさん：金額は小さくても、複数のプロジェクトを支援していくのが良いと思う。

・当方：今回の支援要望は 1 万ドル（約 100 万円）以上のものが多い。Singiland 中等学校の要望である 3 実験室の建設は数万ドルかかるかもしれない。これ一つでも大きなプロジェクトであり、複数の支援は資金的に困難だと思う。

・スーレさん：Singiland 中等学校の第一要望は実験室だが、資金的に無理なら図書室の建設支援でも良いと思う。図書室建設なら 1 万ドルで可能かもしれない。実験室はコニュニティと自治体で対応してもらえれば良い。尚、1 つの建物を WRJ とコミュニティが共同で建設することは避けた方が良い。

・当方：1 万ドルでも大きな金額だが、仮に優先度を付けるとしたら、どのプロジェクトを優先すべきか。

・スーレさん：順番としては、①Benee 初等学校の教室建設、②Singiland 中等学校の図書室、③Dinamu 中等学校のベッドとマットレス、だと思う。

・当方：何故、Benee 初等学校の優先度が高いのか。

・スーレさん：同校のある場所は、大変貧しい地域。そのような環境で、これまでコミュニティが努力して自分達で学校を作ってきた。だが、教室が不足しており大きな問題を抱えている。但し、まだ Benee 初等学校から予算書をもらっていないので、それを受け取ってからどのような支援が可能かを検討してはどうか。

～・～・～　タンザニアでのすばらしい体験　～・～・～

今回の初めてのアフリカ旅行は、私の中で忘れられない旅となりました。私は普段、小学生から大学生までの幅広い年齢層の子供達と関わる仕事をしています。自分が行ったことのない国の子供達や彼らをサポートしている人達に会ってみたいと思ったこと、また父がワールドランナーズ・ジャパンでどのような活動をしているのかを身近で見たかったことから参加させて頂きました。現地では複数の学校を訪問しましたが、学校建設の苦労や運営の大変さ、学校を良くしたいという先生方の願い、勉強を続けたいという子供達の想いや子供達を学校に通わせたいという地域の人々の熱意等を強く感じ、また教育制度に関し日本との違いに驚いたことも多々ありました。

ムリンガの女生徒と

印象的だったのは、現地の人々の WRJ への信頼の厚さです。全ての人が私達を歓迎して下さり、10 年以上前から知っているという方も会いに来られ、またこれまで行った支援に多くの方が感謝されており、これらの光景を見て感動しました。WRJ が何年もタンザニアの人達と一緒に続けてきた支援、そしてその支援でどれだけ多くの人達が支えられているのかをもっともっと沢山の人に知ってほしいと感じています。私もこの体験を周りの人や子供達に伝えていきたいと思います！

今回、加藤さん、矢崎さんに大変お世話になりました。貴重な経験をさせて頂き感謝しております。本当に有難うございました。**（金子咲貴）**

WRJ 総会のお知らせ

次の通り 2016 年度WR J総会を行ないます。

日時：2017 年 9 月 16 日（土）15：30～

場所：決定次第 http://www.wrj.jp にてお知らせします。

※総会後　　アフリカ報告会　16：30～

　　懇親会　　18：00～　を予定

これからのWR J、アフリカプロジェクトの事など語り合いたいと思います。

［『みんなのサファリ』さんのご紹介］

今回のツアーもタンザニア現地の日本人とタンザニア人によるサファリツアー専門の会社『みんなのサファリ』さんにお世話になりました。2013 年、2015 年と今回の 3 回連続でお世話になり、いずれも運転手はジェレミアさんでした。キリマンジャロ空港からアリューシャ、ブル、そしてサファリ観光で訪れたセレンゲティ国立公園の全ての行程をジェレミアさん運転のサファリカーで移動しました。次回もまたお世話になる予定です。写真は加藤代表が専用ステップを使って乗車するところで、左がジェレミアさんです。

★『みんなのサファリ』ＨＰ　　http://www.minnanosafaritz.com/

セレンゲティ国立公園（世界遺産）

タンザニアが誇る世界遺産で、1981 年にユネスコに自然遺産として登録されました。“セレンゲティ”とはマサイ語で「果てしなく広がる平原」の意味で、キリマンジャロの裾野に広がる大サバンナ地帯にあります。ツアー参加者は今回の訪問で当地を訪れました。昼間は野生動物たちによる弱肉強食の世界ですが、日が沈む光景もなかなか圧巻ですね！

定期ラン（since1994）のご案内

WRJ ではランナーの交流の場として毎月第二日曜日に定期ランを開催しています。

通常は皇居周回コース（1 周 5km)で、竹橋・平川門前をスタートし、走力に合わせて 1～3 周を走ります。他、年に数回、皇居以外の多摩川や荒川等で開催しています。終了後 18 時から懇親会を開催しています。

○参加希望・ご質問に関して

定期ラン連絡用メール(teiki-run@wrj.jp)へ。

定期ランマネージャー佐藤、和田理事に届きます。

※連絡が取れない場合は WRJ 事務局まで

（044-949-1068）

次回：9 月 10 日(日)(第 280 回)

集合：JR 神田駅北口 14 時 40 分集合

　竹橋駅　15 時 30 分集合

銭湯：「お玉湯」利用。皇居を走ります。

　入浴後は懇親会予定（18 時頃～）

次々回　：10 月 9 日(日)(第 281 回)　お台場予定。

○皇居以外の開催予定

3 月　よみうりランド周辺

4 月　多摩川・国立

編集後記

2 年前初めてタンザニアを訪れましたが、今年は仕事の都合で参加できず。次回こそまた参加して、しっかりと現地との繋がりを保持しながら、今後も着実に活動していきたいと思います。（鈴木香子）

アフリカでの代表の表情が印象的でWR J 初期の頃を思い出しました。純粋に何かを見つめ、自分の夢達成目指し、歩み続ける未来ある子ども達の為にメンバーと共に一歩踏み出したいと思いました。（佐藤高正）